





AIR-INTAKE SYSTEM FOR MOBILE ENGINE

Patent number: JP4231670
Publication date: 1992-08-20
Inventor: NEMSER STUART M
Applicant: DU PONT CANADA INC
Classification:
- **international:** F02M33/00
- **european:**
Application number: JP19910166159 19910612
Priority number(s):

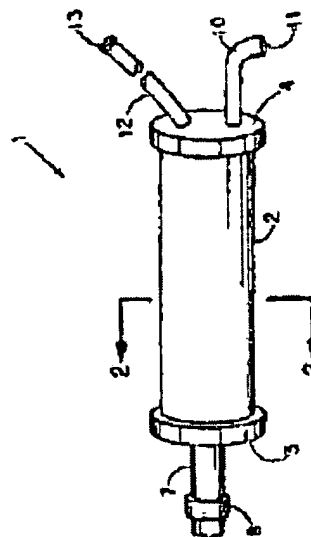
Also published as:

 EP0461852 (A2)
 US5051113 (A1)
 EP0461852 (A3)
 EP0461852 (B1)

Abstract of JP4231670

PURPOSE: To selectively feed the oxygen-enriched air or oxygen depleted air in accordance with the operation mode of an engine by forming a system with a thin film material composed of an amorphous polymer of perfluoro-2,2- dimethyl-1,3-dioxole.

CONSTITUTION: A thin film material for oxygen enriching exhibits an oxygen/ nitrogen selectivity of 1.4:1, and the thin film material has a permeate section communicated with an air supply portion and a combustion zone. An end cap 3 is an inlet end of a cylinder 2, and an end cap 4 is an outlet end. The cylinder 2 is filled with a number of hollow fibers (thin film material). An air-intake pipe 7 is mounted on the end cap 3, and comprises a filter 8 in series therewith. The end cap 4 comprises a first exhaust pipe having an exhaust port 11. Further a second outlet pipe 12 comprising a connector 13 is also mounted on the end cap 4. In the operation, the air is supplied through the air-intake pipe 7.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-231670

(43) 公開日 平成4年(1992)8月20日

(51) Int. Cl.⁴

F 0 2 M 33/00

識別記号

庁内整理番号

C 8923-3G

F 1

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平3-168159

(22) 出願日 平成3年(1991)6月12日

(31) 優先権主張番号 5 3 8 0 5 8

(32) 優先日 1990年6月13日

(33) 優先権主張国 米国 (U S)

(71) 出願人 391019083

デュポン・カナダ・インコーポレーテッド
DU PONT CANADA INCORPORATED

カナダ国エル5エム2エイチ3・オンタリオ・ミシソーガ・ストリートビル・ボックス 2200

(72) 発明者 ステュアート・マーシャル・ネムサー
アメリカ合衆国デラウェア州19803ウイルミントン・ハンブトンロード325

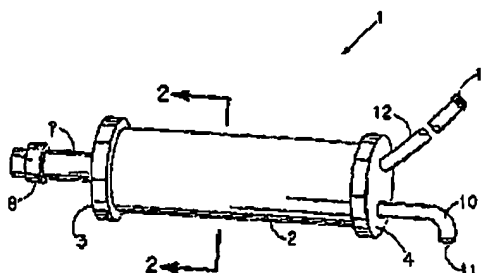
(74) 代理人 弁理士 小田島 平吉

(54) 【発明の名称】 移動式機関用空気取入れシステム

(57) 【要約】

【構成】 移動式燃焼機関用の空気取入れシステムが明らかにされる。この空気取入れシステムは、ペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーから形成された薄膜材を備え、薄膜材は少なくとも1.4:1の酸素/窒素選択率を示す。薄膜材の透過部又は供給部のいずれかが移動式燃焼機関の燃焼区域と連通するようにされる。好ましくは、薄膜材は100 Barrer以上、特別には500 Barrerを越す酸素流量を持つ。

【効果】 この空気取入れシステムは、機関の作動モードに応じて、機関に酸素富化空気又は酸素減損空気のいずれかを供給する。



BEST AVAILABLE COPY

(2)

特開平4-231670

1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 多孔性支持体上のペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーのフィルム又は塗膜を備えた薄膜材を備え、前記薄膜材が少なくとも1.4:1の酸素/窒素選択率を示すことを特徴とする移動式燃焼機関用の空気取入れシステム。

【請求項2】 燃焼区域及び燃焼区域のための空気取入れシステムを備えた移動式燃焼機関にして、空気取入れシステムが多孔質支持体上のペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーのフィルム又は塗膜を備えた酸素富化薄膜材を備え、前記薄膜材が少なくとも1.4:1の酸素/窒素選択率を示し、前記薄膜材が空気供給部と通過部とを有し通過部と供給部の一方が燃焼区域に連通していることを特徴とする移動式燃焼機関。

【請求項3】 燃焼区域と燃焼区域のための空気取入れシステムとを有する移動式燃焼機関の運転方法にして、空気の酸素富化された部分を薄膜材の通過側に薄膜材透過させる方式で空気取入れシステム内の酸素富化膜の供給側に空気を供給すること、及び次いで通過部と供給部の一方から移動式燃焼機関の燃焼区域に空気を供給することを含み、酸素富化膜は多孔質支持体上のペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーのフィルム又は塗膜を備え、前記膜は少なくとも1.4:1の酸素/窒素選択率を示すことを特徴とする方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】 本発明は移動式機関用の空気取入れシステム、特に自動車エンジン用空気取入れシステム、更に特に空気取入れ口内に入ってくる空気の酸素富化又は酸素減損を行う選択的通過可能な薄膜材を有する空気取入れシステムに関する。

【0002】 酸素と窒素との混合物、例えば空気を含む気体混合物の富化及び/又は分離の方法は知られている。特に、ペルフルオロジオクソールのポリマーより形成された薄膜材が、エス・エム・ネムザー及びアイ・デー・ローマンの1990年12月27日付けPCT特許出願第W090/15862号に記述されている。これら出願は、ペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーより形成された多種の気体混合物の分離用の選択的通過可能な薄膜材を説明する。薄膜材は多孔質の支持体上のフィルム又は塗膜の形で、あるいは中空繊維の形で支持された薄膜材でよい。薄膜材は、有機成分の気体、例えば気体フルオロカーボン、又は揮発性有機気体の気体混合物をその他の気体から分離するために使用できる。更に、薄膜材は、酸素を含んだ多種の気体混合物の窒素からの分離、即ち空気中に含まれる酸素量の増大に使用することができる。

【0003】 天然ガス燃焼における薄膜酸素富化の応用が、エス・ジー・キム及びダブリュー・アール・プロ

ウォールによりジャーナル・オブ・メンブレン・サイエンス、29(1986)69-77に記述されている。この論文は、酸素富化空気による燃焼がある応用例においては燃料消費を相当減少させること及び薄膜材の使用が酸素富化空気の製造に相当効果的な方法であることを述べている。天然ガス燃焼の際の消費量の低下を与えるシリコンベースの酸素富化用の薄膜材が作られ試験された。

【0004】 消費者に送られる空気の酸素成分を増加させ又は低下させる装置が、エフ・ウォルフにより1981年3月11日付け欧州特許出願第0024718号に開示されている。制限された空間内、例えば乗用車の客室内にある空気を浄化する装置が、エム・ヤマモト他の1984年1月11日付け英国特許出願第2122103号に明らかにされている。

【0005】 移動式燃焼機関用の自動車用空気取入れシステムは見出だされており、このシステムはペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーより形成された薄膜材で形成される。

【0006】 従って、本発明は、ペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーより形成され少なくとも1.4:1の酸素/窒素選択率を示す薄膜材を備えた移動式燃焼機関用の空気取入れシステムを提供する。

【0007】 空気取入れシステムの好ましい実施例では、薄膜材は空気供給部と通過部とを有し、前記通過部は移動式燃焼機関の燃焼区域と連通するようにされる。

【0008】 本発明は、また、燃焼区域、及び燃焼区域のための空気取入れシステムを備え、空気取入れシステムはペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーより形成された酸素富化用の薄膜材を備え、前記薄膜材は少なくとも1.4:1の酸素/窒素選択率を示し、前記薄膜材が空気供給部、及び燃焼区域と連通している通過部を持っている移動式燃焼機関も提供する。

【0009】 更に、本発明は、燃焼区域、燃焼区域のための空気取入れシステムを有し、空気取入れシステムはペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーより形成された酸素富化用の薄膜材を備え、前記薄膜材は少なくとも1.4:1の酸素/窒素選択率を示し、前記薄膜材は空気供給部及び通過部を有する移動式燃焼機関の運転方法にして、薄膜材の供給部に空気を供給し更に通過部から移動式燃焼機関の燃焼区域に酸素富化空気を供給し、前記通過部は好ましくは負圧の下で作動する方法を提供する。

【0010】 本発明に好ましい実施例においては、薄膜材は100 Barrer以上の流量を持つ。

【0011】 本発明の別の実施例においては、薄膜材は多数の中空繊維、特に空気取入れシステムが繊維の内部に連絡された中空繊維の形である。

(3)

特開平4-2

3

4

【0012】本発明は添付図面を参照し説明される。

【0013】本発明の空気取入れシステムの一実施例が一般に番号1で図1に示される。空気取入れシステム1は、端部キャップ3と4とを有するシリンダー2より構成される。端部キャップ3はシリンダー2の入り口端であり、端部キャップ4はシリンダー2の出口端である。シリンダー2は多数の中空繊維(図示せず)で満たされる。

【0014】端部キャップ3には空気取入れ管7が取り付けられ、空気取入れ管7はこれと直列のフィルター8を持つ。フィルター8は、フィルター及び空気取入れ管7内に入る空気の流量を制御するバルブの形式であることが好都合である。空気取入れ管7には、吸入管内への空気の流入を容易にするために、ポンプ手段を取り付けることができる。

【0015】端部キャップ4は排出口11を持った第1の排出口10を持つ。端部キャップ4には、コネクター13が取り付けられた第2の出口管12も取り付けられる。コネクター13は、移動式燃焼機関(図示せず)の燃焼区域と連通する手段に取り付けられるようにされる。

【0016】入り口管7は、シリンダー2の内部に置かれた中空繊維の内部と連絡され連通するようにすることができる。この場合、第1の出口管10もまた中空繊維の内部に連絡され連通され、第2の出口管12は繊維の外側に連絡され連通される。あるいは、入り口管7がシリンダー2の内部に置かれた中空繊維の外側と連絡され連通し、出口管が上述とは逆の方法で連絡される。従って、図1に示された空気取入れシステム1は、中空繊維の内部と連通するか又は中空繊維の外側を通過し、これにより出口管に連絡する入り口管7を持つことができる。

【0017】図2は、断面で示された多数の中空繊維20のあるシリンダー2の断面をで示す。入り口管7も示される。

【0018】図1及び2において、薄膜材は中空繊維であるとして示される。これは薄膜材の好ましい形状であると考えられるがその他の形状を使用することもできる。例えば、薄膜材を螺旋状カートリッジの形式を含んだフィルム又は塗膜の形の薄膜材とすることができ、更に薄膜材をいわゆる一体式薄膜材、非対象薄膜材及び複

空気が酸素に富むように、薄膜材、即ち中空することが好ましい。中空繊維薄膜材の透過は移動式燃焼機関の燃焼区域に連結され、適な負圧下で作動する。透過域は燃焼区域に対する酸素源であるが、追加の酸素源、例えば連通する空気を持つことが好ましい。特に、瞬間的な酸素の要求に基づいて空気の追加量のために、適切な弁手段を使用することができる。

【0020】図1は、入り口空気と酸素富化空気とが同方向に流れる場合を示す。しかしの出口、即ち第2の出口管12をシリンダー管7と同じ端部に置くことにより、入り口空れた出口空気とを反対方向に流すこともでき第2の出口管12を端部キャップ3とキャップに置くこともできる。

【0021】本発明は、特に空気の酸素富化式燃焼機関への酸素富化空気の供給を参照しが、本発明は空気中の酸素量の減損及び移動への酸素減損空気の供給に使用しうることをである。上述の本発明の作動においては、薄側からの酸素に富んだ空気が燃焼機関に供給素減損空気を使用すべきであるならば、薄側からの空気が燃焼機関に供給されるであろう空気と酸素減損空気の両者は、異なった機関異なった作動の様相における燃焼機関の運転る。

【0022】酸素富化空気の使用は、炭化水ベルの低減は期待できるが、ガソリン機関及びル機関の両者におけるNOX排出レベルを上反対に、酸素減損空気の使用は、炭化水素のを増加させるが、ガソリン機関及びディーゼル機のNOX排出レベルを低下させる。更に、気により、比制動出力の増加、及びガソリンコンバーターの作動率の改善又は増加が期待ろう。しかし、酸素を富化又は減損させた空よる排出の増加は、環境に対する不必要な損とを軽減すべきである。何故ならば、例えば悪すべき総排出であってある特定の物質では及び排出を減少させるために別の方法を取りためである。

(4)

特開平4-2

5

一つの好ましい実施例においては、ポリマーは、ペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソール、及び補足量のテトラフルオロエチレンを含んだジポリマーであり、特にペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの65-99モル%を含んだポリマーである。非晶質ポリマーは、好ましくは少なくとも140℃、より好ましくは少なくとも180℃のガラス転位温度を持つ。ガラス転位温度(Tg)は当業者により知られており、ポリマーが脆いガラス状態からゴム状又はプラスチック状に変化する温度である。ジポリマーの例は、イー・エヌ・スクワイヤーの米国特許第4754009号に更に詳細に記述されている。

【0024】非晶質ポリマーのガラス転位温度は薄膜材の実際のポリマー、特にテトラフルオロエチレン又は又は存在するその他のコポリマーの量により変化するであろう。Tgの例は、前述のイー・エヌ・スクワイヤーの米国特許第4754009号の図1において、少量のテトラフルオロエチレンモノマーを有するテトラフルオロエチレンのジポリマーに対する約260℃から、少なくとも60モル%のテトラフルオロエチレンを含んだジポリマーに対する100℃以下の範囲として示される。本発明の薄膜材は、特にペルフルオロジオクソールポリマーの多能的な処理性能を参照して当業者に知られた方法により製造しうる。これらの方法は、溶剤及び熔融フィルム製造及び繊維紡造法、並びに被覆技術を含む。

【0025】空気取入れシステムに供給される気体混合物は、通常は空気、特に周囲空気である。本発明の空気取入れシステムに使用される薄膜材は、ある実施例では100℃以上の温度を含んだ高温で使用できる。空気取入れシステムは、90℃までの特別な高温、及び特に50℃までの温度で作動できる。かかる温度は、例えば吸入空気と燃焼機関からの排出ガスとの熱交換の際に到達することがある。しかし、薄膜材は、これを形成するために使用される非晶質ポリマーのガラス転位温度以下、特にガラス転位温度より少なくとも30deg低温で使用するべきである。これらの性能は自動車最終使用に対する通常の運転要求を越える。好ましい実施例においては、ガラス転位温度は少なくとも140℃であり、特別には少なくとも180℃である。本発明の方法は、比較的低温、例えば0℃以下で作動することができる。

6

erの透過率を持つ。薄膜材は、窒素より少ない以上の酸素の選択率を有することが好ましい。
【0028】本発明に関してここに説明されるオロジオクソール薄膜材は、酸素富化空気又は空気の供給用の、ガソリン機関及びディーゼルを含んだ移動式燃焼機関用の空気取入れシステムの優れた薄膜材料であると期待される。ここた薄膜材を使用した空気取入れシステムの好例においては、(燃焼機関と連通する管又は段を含んだ)空気取入れシステムは、好ましくは0.0cm³以下、特別には2800.0cm³以下、くは1400.0cm³以下の体積である。更に、表面積は、好ましくは460m²以下、より好ましくは30m²以下であり、実施例においては表面積以下、特別には90m²以下である。

【0029】実施例においては、本発明のシステムは、燃焼の強化のために、酸素29-別には酸素23-27%を含んだ酸素富化空るであろう。以下の例は、ここに説明の薄膜低い選択率において極めて高い気体透過率を示す。かかる透過特性はここに説明された対して適切である。別の実施例においては、システムは酸素21%以下、例えば酸素6-別には酸素16-19%を含んだ酸素濃縮空るであろう。

【0030】以下の実施例I-Vにおいてルオロジオクソールポリマーの気体透過率がム膜の試料を使用して測定された。試料は円れ、吸気室及び透気室を形成するように透過り付けられた。後者は低温で作動させた。

【0031】空気分離試験中は、供給流は圧り、これは一定の供給流を確実構成するのきさの流量で供給された。透過され酸素の富気は大気圧で取り出された。透過流量は、較ユレット内の石炭の泡の体積変化により測定物の組成はガスクロマトグラフィーにより決大部分の単一気体透過試験において、供給Paから1950.0kPaの範囲の圧力で供給さ

【0032】幾つかの低圧の試験においてはの流量は、一定容積の空気を抜いた室内の圧

(5)

特開平4-2

7

8

【0035】上述の透過試験法を使用した単一気体及び混合気体の透過試験においては、このフィルムは空気の成分に対して極めて高い透過率、即ち酸素に関しては990 Barrer、窒素に対しては490 Barrerを示した。*

* Barrerは、次式で定義される。

【0036】

【数1】

$$\text{Barrer} = 10^{-10} [\text{cm}^3 (\text{STP}) \cdot \text{cm}] / [\text{cm}^2 \cdot \text{sec} \cdot \text{cmHg}]$$

更に、酸素と窒素の透過率は、供給圧力の関数ではなく、また膜厚の関数でもないことが見出された。

【0037】実施例ⅠⅠ

降膜材が、ガラス転位温度166℃のペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソール及びテトラフルオロエチレンのジポリマーより、熔融プレス及び溶剤鑄造技術を使用して作られた。熔融プレスされたフィルムは厚さ0.25mmであり、溶剤鑄造フィルムの厚さは0.025mmである。

【0038】溶剤鑄造フィルムは、(FC-75内の15重量%のジポリマー(FC-75は3M社より発売の気

※市販溶剤の商品名であり、ペルフルオロ(2-ラヒドロフラン))溶液より形成された。厚さの膜が溶剤よりガラス板上に形成され、溶剤と蒸発するようにされた。得られたジポリマーの厚さは0.025mmであった。

【0039】このフィルムが上述の手順を使用及び窒素を用いた単一気体透過試験を受けた結果は表ⅠⅠに要約される。

【0040】透過の結果が表ⅠⅠに要約される

【0041】

【表1】

表 Ⅰ Ⅰ

気体	膜厚	供給圧力	透過率
O ₂	0.250mm	3.55MPa空気	350 Barrer
O ₂	0.025mm	0.79MPa空気	340 Barrer
N ₂	0.250mm	3.55MPa空気	130 Barrer
N ₂	0.025mm	0.79MPa空気	130 Barrer

この結果は、酸素及び窒素に対しては、得られた透過率の結果に対する膜厚の明らかな影響がないことを示す。

【0042】この結果は、また、この例のジポリマーが実施例Ⅰのジポリマーよりも透過率の低いことを示す。後者は高濃度のペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールを持つ。しかし、空気の成分に対する透過率はなお十分に高く、ポリテトラフルオロエチレンよりも少なくとも2桁大きい。

★【0043】実施例ⅠⅠⅠ

厚さ0.25mmの膜が、ガラス転位温度(Tg)オロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールたジオクソール含量のテトラフルオロエチレンのジポリマーより熔融プレスされた。供給流0-3500kPaの空気を使用した空気透過の平均が表ⅠⅠⅠに与えられる。

【0044】

★【表2】

表 Ⅰ Ⅰ Ⅰ

ジオクソール (モル%)	Tg	酸素に対する 透過率	O ₂ /N ₂ の 選択率
66	166℃	340 Barrer	2.6
78	203℃	980 Barrer	2.3
86	253℃	990 Barrer	2.05

空気分圧試験においては、これらジポリマー膜はO₂及 40 率を示す。また、表ⅠⅠⅠの結果は、本発明

(6)

特開平4-2

9

10

な関数でしかないことが理解された。

【0047】得られた結果は表IVに与えられる。

【0048】

【表3】

気体	表 IV 透過率	
	ジボリマー	PTPE
O ₂	990 Barrer	4.2 Barrer
N ₂	490 Barrer	1.4 Barrer

得られた結果は、本発明の膜で大きな透過率を得られることを示す。ジボリマー及びポリテトラフルオロエチレンの膜により示された選択率は小さく、ガラス状、非ゴム状のポリマーの比較的典型的なものであると信じられるが、ジボリマー膜は、比較して非常に大きな透過率を示す。

【0049】実施例V

温度制御された水槽内の水中に沈めた透過セルを使用して透過の測定が行なわれた。透過セルからの透過物は、透過物の組成を測定するためにガスクロマトグラフィーの試料採取用バブルを通り、次いで透過物の流量を測定するために石鹸膜の細管に送られる。気体混合物の濃度は、スペクトラ・フィジックス・インテグレーター型式SP4400に先行するエッチビー・ガス・クロマトグラフィー型式5700Aにより測定された。圧力及び圧力低下はセル内で測定される。

【0050】膜は多孔性焼結体(孔径15-20ミクロン)上に置かれ、2個のテフロン(商品名)リングを使用して正しい位置に保持される。物質移動のための有効膜面積は9.62cm²(直径3.5cm)であった。

【0051】気体混合物が試験されるときは、供給濃度を確実に一定にするために、透過流量の約10倍の精溜用の流れが使用され、かつ精溜用の流れは供給濃度を決定するために監視される。単一気体による測定については、セルは、各実験の開始時に、短時間、精溜される。

【0052】焼結プレスされた膜材は、型の中にポリマーを置きガラス転位温度(T_g)より約20deg高い温度で加熱することにより作られる。この温度に達すると、膜の直径12.5cmに対して50トンまでの圧力をこれに5分間加え、そしてこれを解除することによりポリマーが作られる。このとき、型は直径12.5cmに対して4

*内で最小圧力でT_gより100deg高い温度に、その後、圧力が40トン/直径12.5cmに、試料は10分間加圧される。次に、試料ゆっくりと室温に冷却され、アルミニウム箔剥がされる。

【0053】製造膜は、FC-75溶剤内の液より作られる。溶液は50-60℃に加熱クロンのフィルターで濾過される。濾過された清なガラス上で製造され、ダストのない環境で冷却される。膜はオープン内において8くも2時間、次いでオープン内において11さらに乾燥される。

【0054】膜は、ガラス転位温度240℃オロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールフルオールエチレンのジボリマーより、上述のしてFC-75内の2.5%溶液より溶液を0℃で12時間加熱することにより形成された膜材は厚さ20ミクロンであった。

【0055】透過セルに供給された混合気体であった。即ち、N₂が78.25%、O₂が%、残りは気体フルオロカーボンである。

【0056】別の実験の詳細及び得られた結果与えられる。測定は、20℃において定常状態の無い限り次の例の状態で行なわれた。

【0057】

【表4】

圧力(kPa)	表 V 透過率(Barrer)	
	O ₂	N ₂
700	242	114
445	263	112

この結果は、別の気体の存在の際の選択率及果を示す。

実施例VI

ポリ-[ペルフルオロ(2-ジメチレン-4-メチジオクソール)]即ち前述の米国特許第330のポリマーより形成された膜材が、25℃に液法を用いて透過率を試験された。

【0058】別の実験の詳細及び得られた結果に与えられる。

(7)

特開平4-2

11

12

【0061】実施例V I I

ペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールのホモポリマーの膜材が実施例Vに説明された溶剤鋳造技術を使用して作られた。膜厚は33ミクロンであった。これは供給圧力790kPaの合成空気及び単一気体を使用して透過率が試験された。

【0062】得られた結果は表V I Iに与えられる。

【0063】

【表6】

表 V I I

気体	透過率(24℃)
He	3600 Barrer
H ₂	3300 Barrer
O ₂ (空気供給)	1540 Barrer
N ₂ (空気供給)	810 Barrer
N ₂	830 Barrer

水素及びヘリウムの透過率は、ポリトリメチルシリルプロピンを除いて、これらの気体で測定された最高である*

表 V I I I

供給空気の圧力	O ₂ 流量(Barrer)	O ₂ /N ₂ 選択率
270	1500	1.95
450	1560	2.0
620	1610	2.0
790	1620	2.0
960	1610	1.95
1140	1610	1.95
1480	1610	1.95
1830	1560	1.9
2170	1550	1.9

この結果、膜材に加わる部分圧力は膜材を通過する酸素及び窒素の透過率には少しも影響しないことが示された。

【0068】本発明の実施態様につき説明すれば次の通りである。

【0069】1. 多孔性支持体上のペルフルオロ-2、2-ジメチル-1、3-ジオクソールの非晶質ポリマーのフィルム又は塗膜を備えた膜材を備え、前記膜材が少なくとも1、4:1の酸素/窒素選択率を示す移動式燃焼機関用の空気取入れシステム。

【0070】2. 膜材が空気供給部と透過部とを有

する。しかし、後者のポリマーは不安定な気体有することが知られている。例えば米国特許215号参照。

【0064】更に、混合気体試験における窒素は単一気体試験における窒素の透過率と同様ポリマーの透過経路に対して一緒に透過する酸分子間、又は成分間には測定可能な相互作用を示す。

【0065】実施例V I I I

10 実施例V I Iの膜材が広範囲の供給圧力にわたって試験され、ペルフルオロ-2、2-ジ-3-ジオクソールのホモポリマーを通過する透過率に対する圧力の影響を測定した。

【0066】結果は表V I Iに与えられる。

【0067】

【表7】

30 上記1-4のいずれかの空気取入れシステム。

【0075】7. 膜材が複合膜材の形式で-6のいずれかの空気取入れシステム。

【0076】8. 空気取入れシステムが縦縫格された上記1-6のいずれかの空気取入れシステム。

【0077】9. 空気取入れシステムが縦縫格された上記1-6のいずれかの空気取入れシステム。

【0078】10. 移動式燃焼機関の燃焼区、酸化空気を供給するようにされた上記1-9の空気取入れシステム。

40 【0079】11. 移動式燃焼機関の燃焼区

(8)

特開平4-231670

13

【0081】13. 薄膜材が100 Barrerを越す酸素
流束を有する上記12の移動式燃焼機関。

【0082】14. 薄膜材が500 Barrerを越す酸素
流束を有する上記12の移動式燃焼機関。

【0083】15. 酸素を越える酸素の選択率が少なく
も1.7:1である上記12-14のいずれかの移動式燃
焼機関。

【0084】16. 薄膜材が多数の中空繊維の形式であ
る上記12-15のいずれかの移動式燃焼機関。

【0085】17. 薄膜材が複合膜材である上記12- 10
16のいずれかの移動式燃焼機関。

【0086】18. 空気取入れシステムが繊維の内部に
連絡される上記12-16のいずれかの移動式燃焼機
関。

【0087】19. 空気取入れシステムが繊維の外側に
連絡される上記12-15のいずれかの移動式燃焼機
関。

【0088】20. 薄膜材の透過部が燃焼区域と連通す
る上記12-19のいずれかの移動式燃焼機関。

【0089】21. 薄膜材の供給部が燃焼区域と連通す
る上記12-19のいずれかの移動式燃焼機関。 20

【0090】22. 燃焼区域と燃焼区域のための空気取
入れシステムとを有する移動式燃焼機関の運転方法に
して、空気の酸素富化された部分を薄膜材の透過側に薄膜
材透過させる方式で空気取入れシステム内の酸素富化膜
の供給側に空気を供給すること、及び次いで透過側と供

14

給側の一方から移動式燃焼機関の燃焼区域に空気を供給
することを含み、酸素富化膜は多孔質支持体上のペルフル
オロ-2、2-ジメチル-1、9-ジオクソールの非晶質
ポリマーのフィルム又は塗膜を備え、前記膜は少なくとも
1.4:1の酸素/窒素選択率を示す方法。

【0091】23. 薄膜材が100 Barrerを越える酸
素流束を有する上記22の方法。

【0092】24. 薄膜材が中空繊維の形式である上記
22又は上記23の方法。

【0093】25. 薄膜材が複合膜の形式である上記2
2又は上記23の方法。

【0094】26. 透過部が負圧下にある上記22-2
5のいずれかの方法。

【0095】27. 空気取入れシステムが繊維の内部に
連絡された上記22-24のいずれかの方法。

【0096】28. 空気取入れシステムが繊維の外側に
連絡された上記22-24のいずれかの方法。

【0097】29. 薄膜材の透過側からの空気が燃焼区
域に供給される上記22-28のいずれかの方法。

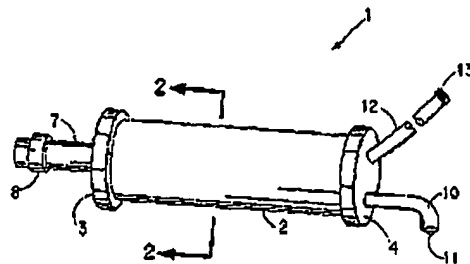
【0098】30. 薄膜材の供給側からの空気が燃焼区
域に供給される上記22-28のいずれかの方法。

【図面の簡単な説明】

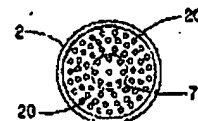
【図1】本発明の空気取入れシステムの図式的表示であ
る。

【図2】図1の空気取入れシステムの線2-2を通る断
面の図式的表示である。

【図1】



【図2】



BEST AVAILABLE COPY